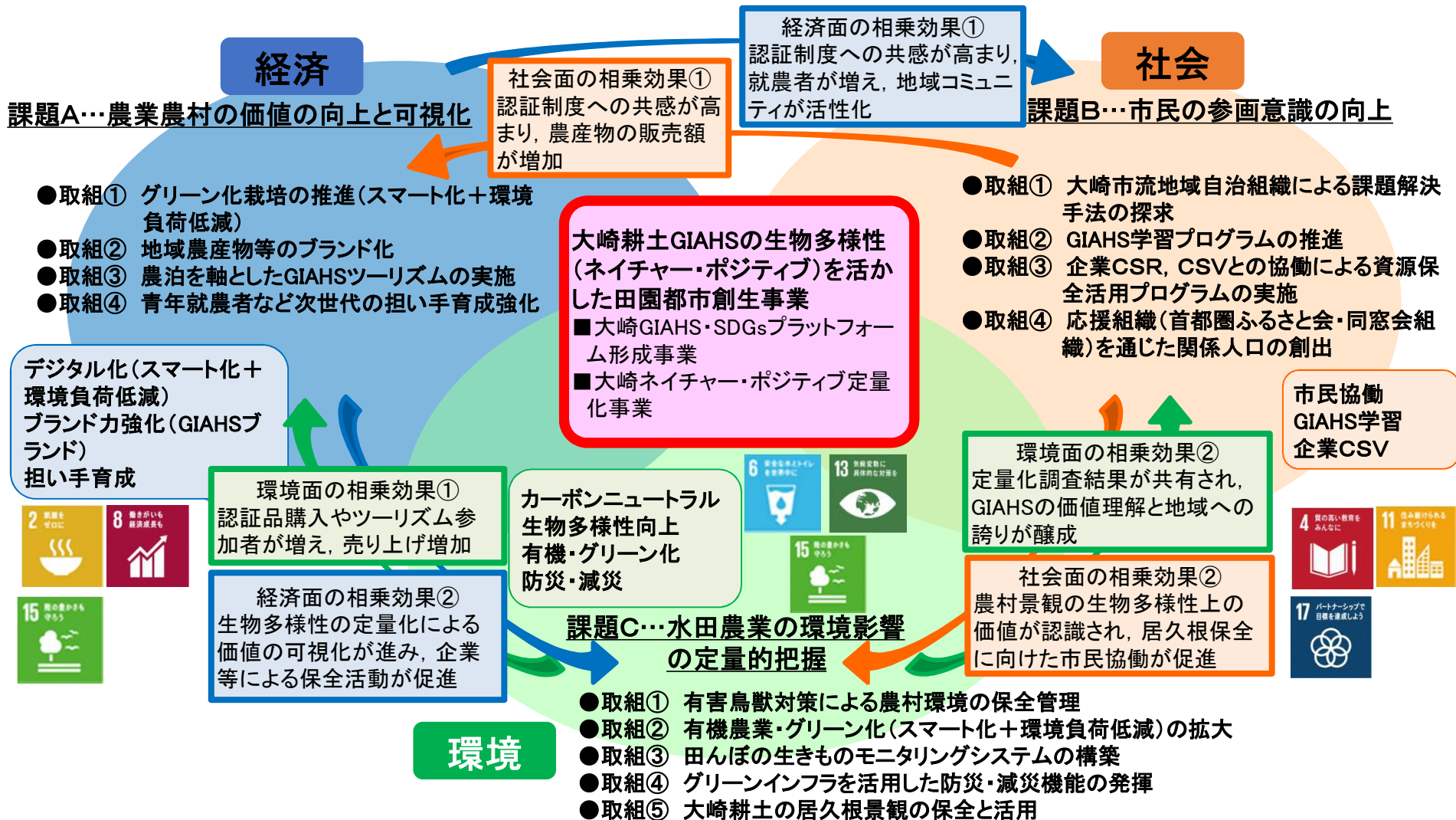


2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

自治体SDGsモデル事業名： 大崎耕土GIAHSを核とした持続可能な地域社会づくり

提案者名： 宮城県大崎市

取組内容の概要： 世界農業遺産(GIAHS)とSDGs目標を連動させ、喫緊の諸課題に対し、多様な主体の参画により、カーボンニュートラルな食料生産、生物多様性の向上、グリーンインフラによるレジリエンス、GIAHSツーリズムなどに関し、「人」、「知恵」、「資源」のつながりの再構築により、新たな付加価値を創出し、持続可能な地域づくりを実現する。



2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

自治体SDGsモデル事業名：Z世代を起爆剤に多様な主体が奏でる常盤平団地エリアのリ・ブランディング

提案者名：千葉県松戸市

取組内容の概要：松戸市の発展の礎を築いた常盤平団地エリアは、グリーンインフラの充実など当時の価値が残る一方、誕生から60年が経過し少子高齢化が著しく進むことから、SDGsを共通言語に、SDGsネイティブなZ世代を起爆剤として市内外の主体による事業マッチングを加速させることで、常盤平団地エリアの価値を改めて高めていく。

経済



【課題】

- 地域経済の発展に地域のネットワーク力が活かしきれていない
- Z世代への松戸の魅力の発信が足りていない

【内容】

- 多様なワークスタイルの実現
- IT・コンテンツ産業の推進
- 空き家や空きテナントの利活用促進
- 地域農産物の商品開発を中心とした地産地消の促進

環境面の相乗効果 (環境⇒経済)

- グリーンインフラの保全と継承を活かした商品開発の実施

経済面の相乗効果 (経済⇒環境)

- 地産地消を通じたごみ量の削減

社会面の相乗効果 (社会⇒経済)

- Z世代の市内就職率の向上

経済面の相乗効果 (経済⇒社会)

- Z世代の地元愛着率の向上

社会



【課題】

- 子どもやZ世代と団地住民との接点が少ない
- 市民活動との共創により地域コミュニティを活性化していく必要がある

【内容】

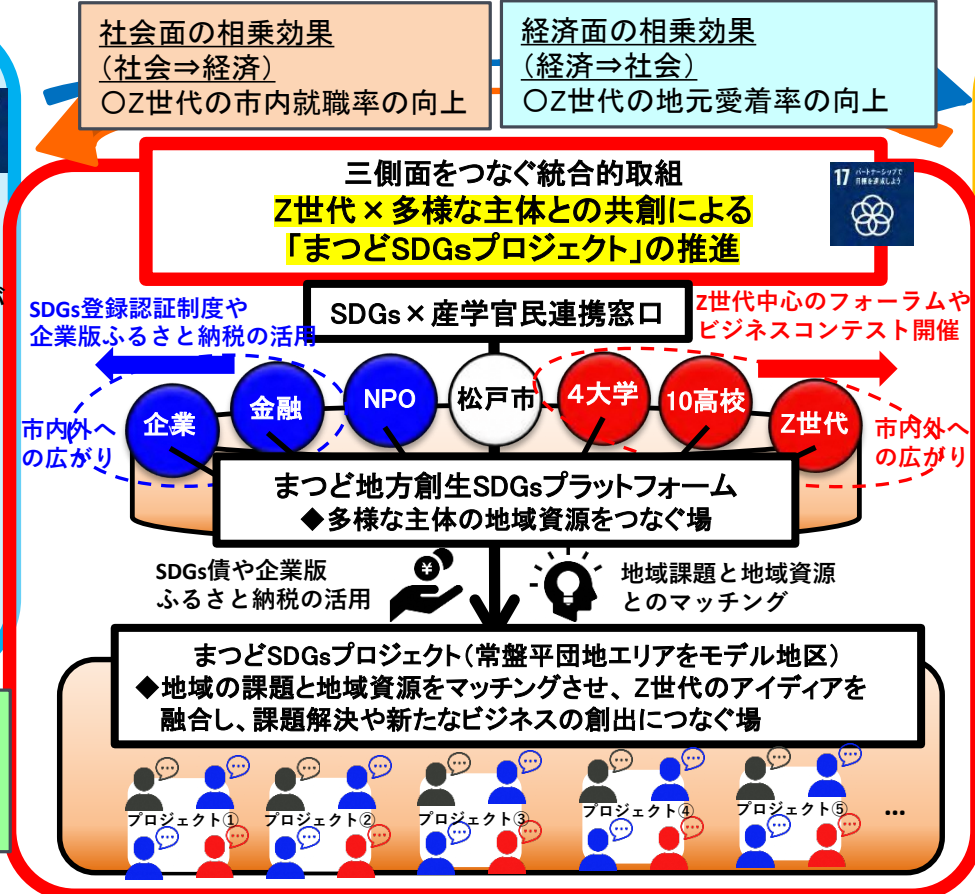
- 子どもの遊びの創出と研究
- Z世代とのボランティア事業のマッチング
- 常盤平団地エリアでのレジデンス事業の検討

環境面の相乗効果 (環境⇒社会)

- 多様な交通システムの導入による健康増進

社会面の相乗効果 (社会⇒環境)

- 地球環境課題の自分ゴト化の促進



- ### 【課題】
- 地域のグリーンインフラの保全と継承が必要
 - 脱炭素型・循環社会のまちへの転換
- ### 【内容】
- グリーンインフラを活用した交流機会の創出
 - グリーンインフラを活用したウェルネストラックの整備検討
 - 環境負荷の少ない交通システムへの転換(シェアサイクルの検討等)

環境



2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

自治体SDGsモデル事業名：逆境を「まちの力」で乗り越える足立SDGsモデル構築事業
「やりたくてもできない」を「やりたい！」に。

提案者名：東京都足立区

取組内容の概要：再開発により、大きく変わる好機を迎えている綾瀬。駅前広場の整備等のハード事業とともに、チャレンジ性と包摂性を引き出す三側面の取組を進める。地域住民の第三の居場所や活動場所、ロールモデルと出会える機会を生み出す中で、子どもたちが社会とつながり、逆境を乗り越える力を培い、安心して暮らせる持続可能なまちを実現する。

経済



課題①
子どもたちのキャリア教育が乏しい
⇒多様な大人から学べる機会の提供

- 【取組】
- 起業体験やITスキルを修得するアントレプレナー教室
 - 東京武道館を子どもたちの研究発表など自己表現の場として活用

課題②
産業分野に特色が少なく、にぎわい不足
⇒新たな価値を生み出す事業の展開

- 【取組】
- 間引き野菜のブランド化
 - 空き店舗を活用したスマート農業
 - グリーンスローモビリティの導入

- 経済活動によるCO₂排出量の削減
- エシカル消費の促進

- 環境に配慮した事業の創出
- イノベーションの誘発

環境



- 子どもたちのロールモデルの輩出
- 挑戦できる環境による起業の促進
- 就業機会の創出

- イメージ改善による来街者の増（経済活性化）
- 地域産業の担い手となる人材の確保

あやせ未来創造活動拠点プロジェクト



- **アヤセ未来会議**
地域課題を解決するプロジェクトを生み出す場
- **高架下No Border LAB**
思いをカタチにしてチャレンジできる場
- **つながるマルシェ**
人と人とのつながりが生まれる場
- **あだちSDGsパートナープラットフォーム**
SDGsに取り組む企業・団体・個人が集まる場

課題①
脱炭素社会の実現に向けたCO₂削減
⇒すべての人の積極的な行動の促進

- 【取組】
- 脱炭素ロードマップの策定
 - 「旧子ども家庭支援センター跡地」のZEB化を目指す
 - 区施設に再エネ100%電力の導入
 - AI需要予測による食品ロス削減実証
 - デジタル教材やアプリによる環境学習
 - バイオダイバーシティの理解促進



社会

課題①
子どもたちが安心して過ごせる場所が少ない
⇒「子どもの居場所」の拡充

- 【取組】
- 居場所を兼ねた学習支援事業
 - 学校へ行けない子への学びの場の提供
 - 学校の図書室を就学前の親子向けに開放

課題②
若い世代からの「治安」への評価が低い
⇒地域等と協働による安全・安心なまちづくり

- 【取組】
- ビューティフル・ウィンドウズ運動
 - AI顔認証システムによる防犯対策
 - ドライブレコーダー映像を活用した道路危険箇所の検知

- SDGsの意識醸成
- 子ども食堂への食材を届ける機会と量の増加

- 暮らしやすいまちの形成
- 環境人材の育成

2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

自治体SDGsモデル事業名：将来に向けた持続可能な食と農の創出プロジェクト

提案者名：新潟県新潟市

取組内容の概要： デジタル技術を有効に活用し、新潟市の強みである「食」と「農」の価値を今以上に高める取組を行うことで、経済面・社会面・環境面の課題解決につなげ、それを三側面をつなぐ統合的取組により、さらに加速させることで持続可能な「食」と「農」の創出を行い、2030年のめざす姿の実現を確かなものとする。

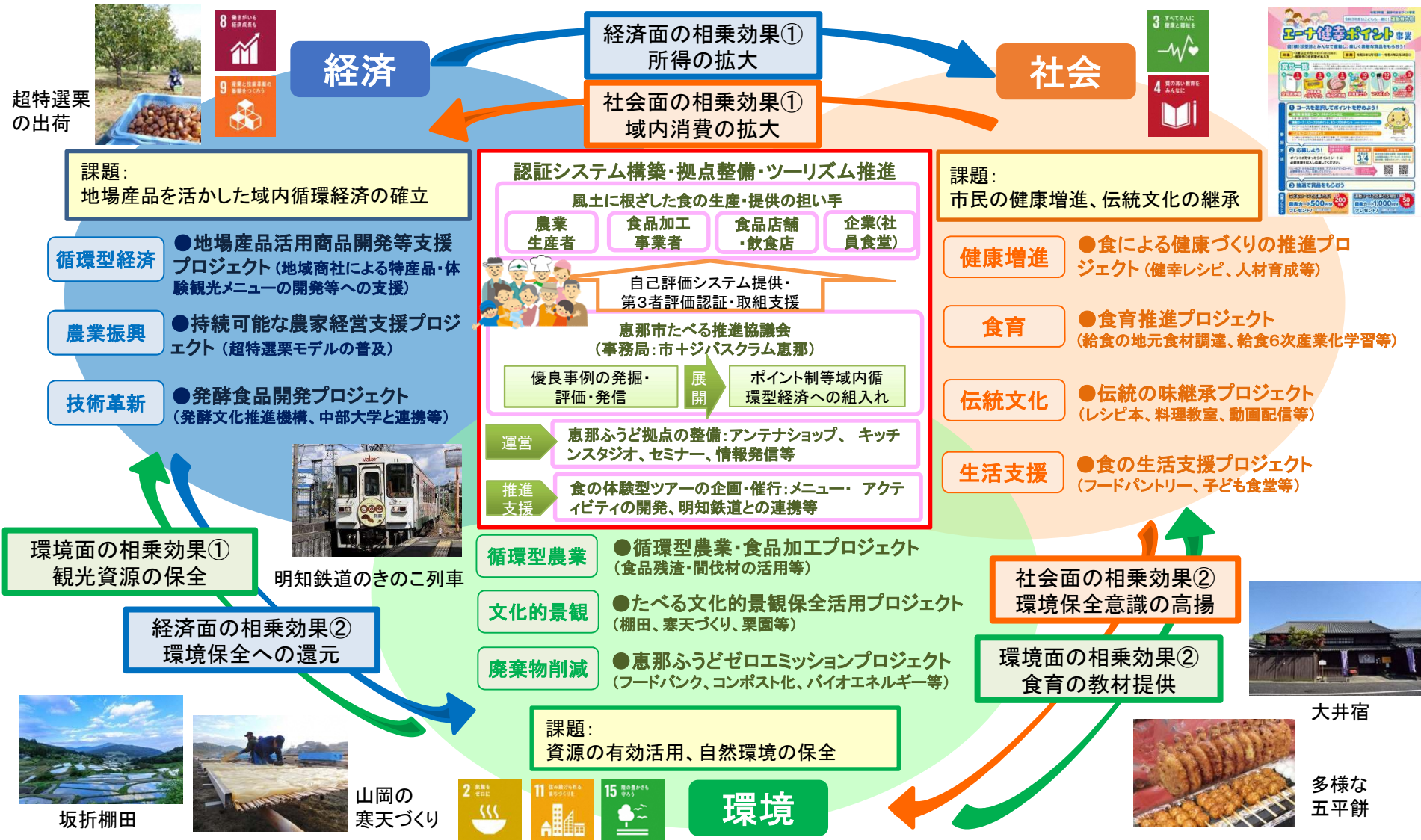


2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

自治体SDGsモデル事業名： 恵那発たべるSDGsモデル構築プロジェクト
 ～ 恵那ふうど = FOOD×風土 ～

提案者名：岐阜県恵那市

取組内容の概要：「たべる」をテーマに、地場産品を活かした域内循環経済の確立、資源循環型の産業や文化的景観の保全活用、市民の健康増進等による経済・環境・社会の三側面の取り組みを推進し、多様な主体による取り組みを「風土」を活かした「FOOD」の視点から認証するシステム「恵那ふうど」の構築とその推進拠点の整備により三側面を統合化し、相乗効果の発現を図る。



2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

事業名：共創による新しい価値の創造 カarbonニュートラルの先にあるCo-ベネフィット型未来都市に向けて

提案者名：大阪府阪南市

取組内容の概要：農空間や海浜空間といった地域資源を活かし、Carbonニュートラルの取組を通じて様々なCo-ベネフィット（恩恵）を創出することで、関係・交流人口を増やし、消費の拡大につなげる。環境にやさしいまちに集まった人々が、健康でウェルビーイング（持続的幸福感）を感じられる取組を推進し、持続可能で好循環な地域づくりの実現を図る。

経済



課題：デジタルを軸とした域内交流の循環

- 「株式会社漁師鮮度」によるサイバーマルシェ・都市圏向け地魚販路の拡大、新たな雇用の確保
- 関係・交流人口拡大推進事業
 - ・デジタル田園都市国家構想を踏まえ、サテライトオフィスの誘致、テレワーク環境の改善
 - ・豊かな海洋資源を活用したビーチワーケーションの促進
- 地域金融機関（池田泉州銀行等）を軸とした域内活性化を目的とするESGプラットフォームの構築
- 大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラムを活用した実証実験（デマンド交通）

【環境面の相乗効果】
脱炭素や魚庭の海の再生を通じた地産地消の推進

【経済面の相乗効果】
経済活動を通じたCarbonニュートラルの推進

環境

課題：Carbonニュートラルの実現・農地の保全・魚庭の海の再生

「お茶とアマモから始まる Carbonニュートラル！ 「はんなん・Co-ベネフィット」創出プロジェクト

陸と海からCarbonニュートラルを実現

- ・遊休農地をお茶畑に転換しグリーンカーボンを推進
- ・アマモ場（漁場）再生によるブルーカーボンの推進
- ・環境教育推進の拠点整備

Co-ベネフィット創出により、新たな消費や交流人口を拡大

- ・お茶の栽培や漁場の再生にあわせ、新たな地域ブランドを確立
- ・陸や海で体験型コト消費の機会を拡大し阪南ファンを拡大

阪南に集まる人々のゆとりある時間（生活）を創出

- ・「お茶のある暮らし」をキーワードにした市民の健康づくりを推進
- ・漁場の再生や体験型コト消費の拡大等を通じた新たな雇用の創出
- ・ゆとりある時間（生活）の実現に向けた、テレワークステーション、遊休施設を活用したサテライトオフィスなどサードプレイスの整備

- 「太平洋セメント」などと連携し、アマモ場再生の実証事業
- ゼロCarbonシティ宣言の取組推進
 - 里山：お茶グリーンカーボン推進事業（伊藤園）
 - 里海：アマモ場再生ブルーカーボン推進事業
- 環境保全事業×海洋教育などの環境教育推進（セブンイレブン記念財団・株式会社漁師鮮度）

【経済面の相乗効果】
地域ブランドの確立等を通じたシビックプライドの醸成

【社会面の相乗効果】
食育等の推進による域内消費の拡大

三側面をつなぐ統合的取組



社会

課題：健康寿命の延伸・地域コミュニティの充実

- 茶畑運営、茶摘み、茶作りなど、お茶を軸にした健康づくり事業
 - ・グリーン（健康）サポーター育成
 - ・健康セミナーの開催、活躍の場づくり
- 「伊藤園」等企業連携によるフレイル対策、認知症予防など健康寿命延伸を目的とした検証研究事業
- 「大阪ガス」「村川学園」との連携による地産地消を中心とした健康増進メニューの開発・食品ロス削減のための食育事業の展開
- 関西国際空港から20分立地を活かしたプロモーション展開による定住・移住の促進

【環境面の相乗効果】
環境保護活動を契機とした多様なコミュニティの創出

【社会面の相乗効果】
地域住民が主体になった持続的な環境保護活動の実施

(アマモ場)

(茶畑)



2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

自治体SDGsモデル事業名： 1000年をつなぐ田辺市熊野SDGsプロジェクト

提案者名： 和歌山県田辺市

取組内容の概要： 蘇りの地「熊野」の再生と自然資源を生かした新たなツアーの造成などによる熊野古道プラスαの観光振興、ふるさと納税を活用した熊野の森を守り・育てる仕組とその担い手づくり、地域にコミットするローカルイノベーターの育成と関係人口の創出、地域コミュニティの再構築に資する人材育成に取り組む。

経済

8 働きがいも経済成長も

15 陸の豊かさも守ろう

課題：「熊野古道」プラスαによる観光産業の活性化
熊野の森を守る林業の担い手確保

- 地域の観光産業の回復
蘇りの地「熊野」再生事業
- 地域自然資源を活かしたツアーの造成
地質及び地形とそれらに由来する自然資源を生かしたツアーの造成
- 「低山トラベル」をテーマとした新たな客層の開拓
低山トラベル推進事業
- 森を育て、森を守る担い手づくり
森林経営管理制度による森林整備を通じた林業従事者の確保

森を守る担い手の育成と森林のCO2吸収量の維持向上

耕作放棄地での森林の種苗生産をはじめとした地域人材による経済課題の解決



環境

課題：世界文化遺産の保全と継承
環境教育の強化・脱炭素社会への貢献

- 社会が一体となった世界文化遺産の保全
・熊野古道の森保全事業(くまもり事業)
・ふるさと納税を通じたくまもり基金への寄付促進
- 地域企業と連携した持続可能な社会の創り手づくり
未来の熊野を守る子ども達への森林環境教育の推進

有害鳥獣の駆除・活用による生活環境改善をはじめとした地域人材による社会課題の解決

地域課題を背景としたビジネスモデルの展開による地域経済の活性化

三側面をつなぐ統合的取組

熊野の未来を拓く、ひとづくりプロジェクト

- 森を育て、森を守る担い手づくり
「森林の育てびと」育成・確保対策事業
- 地域企業と連携した持続可能な社会の創り手づくり
森林環境教育プログラム開発事業
- 地域にコミットするローカルイノベーターと関係人口づくり
・たなべ未来創造塾
・熊野REBORN PROJECT、ことらぼ
・地域にコミットするローカルイノベーター・ネットワーク化事業

8 働きがいも経済成長も

17 パートナリシップで目標を達成しよう

社会

課題：地域コミュニティの再生
次世代を担う人材の育成

- 地域にコミットするローカルイノベーターと関係人口づくり
・地域課題の解決を通じたビジネスモデルの創出と人材育成
・地域にコミットする関係人口の創出と総合プラットフォームの構築
- 地縁型組織・テーマ型組織の担い手・支え手の育成
住み続けるまちを担う新人材育成事業

地域人材の連携による森林資源の有効活用をはじめとした環境課題の解決

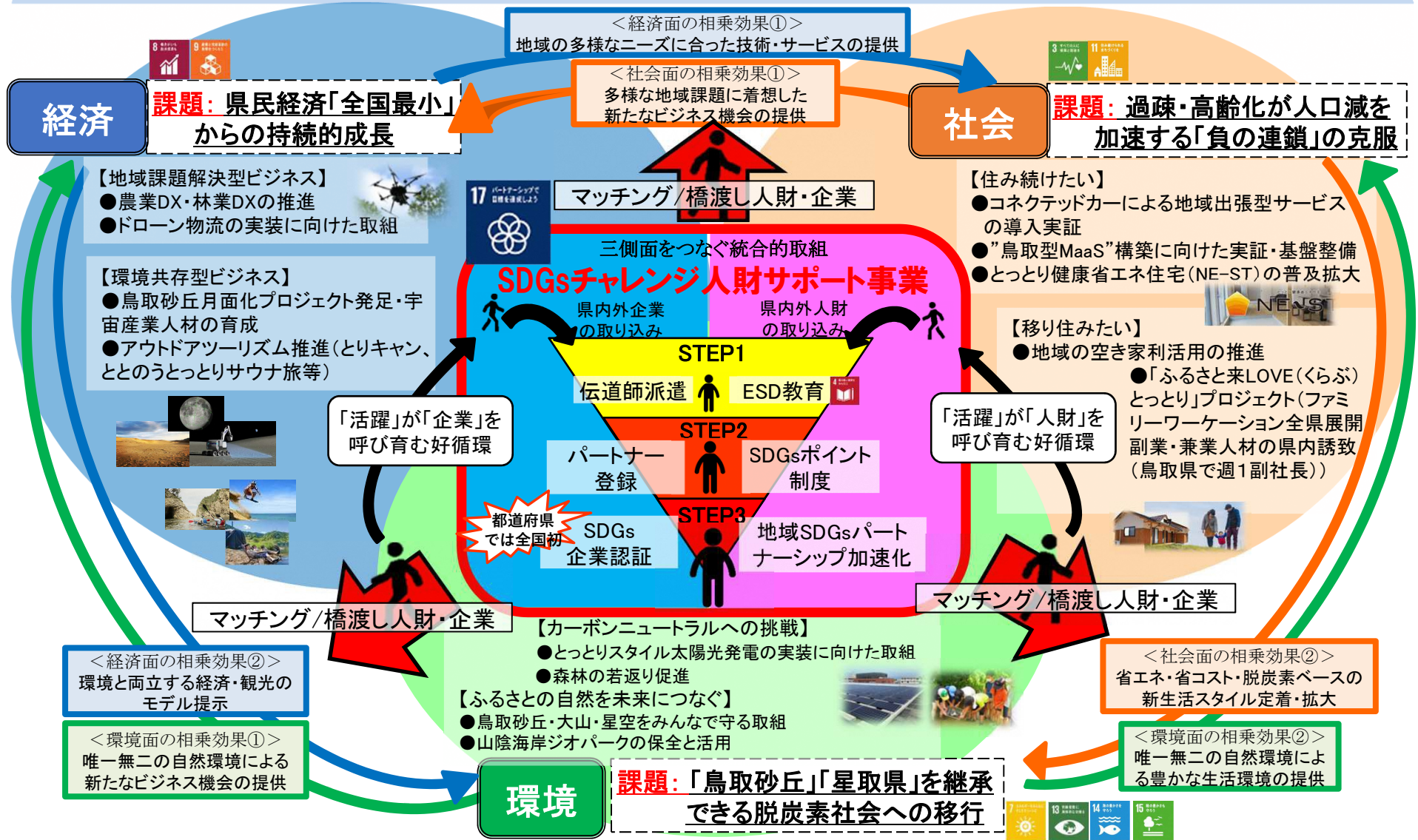
環境教育の普及による社会全体の環境に配慮したライフスタイルへの転換

2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

自治体SDGsモデル事業名：人口最少県 誰もが活躍する「人づくり王国とっとり」戦略
～SDGsチャレンジ人財サポート～

提案者名：鳥取県

取組内容の概要：人口最少・県民経済最小である本県では、県民・企業が最大の地域資源。他分野と連携した「挑戦」を強力にサポートすることで、そのポテンシャルを最大化し、「三側面の好循環」と「活躍と人財・企業の好循環」を実現。人が地域を支え、地域が人を支える、小さくとも持続可能な「人づくり王国とっとり」を実現する。



2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

自治体SDGsモデル事業名: **Move forward! 「SDGsフードマッチングプロジェクト」**

提案者名: 熊本県八代市

取組内容の概要:

地域課題の解決に向け、デジタル技術も活用しながら市内外の人・企業・団体・地域が、“八代の豊富な農林水産物”等を活用した「食でつながる」機会を創出し、八代市の経済・社会・環境が持続的に発展する仕組（体制）を構築する。



※エシカル消費：環境や人権に対して十分に配慮された商品やサービスを選択して買い求めること

2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

自治体SDGsモデル事業名: 島々を抱く穏やかな海とともに生き続けるためのプロジェクト

提案者名: 熊本県上天草市

取組内容の概要: 海と島々、温暖な気候など他にない自然環境の恩恵として美しい景観と豊富な特産物があり、この恵みを守り活かすため、海洋環境維持、観光業の活性化、水産業のDX化に取り組み、基幹産業の安定的な経営活動を推進し雇用を拡大させる。併せて、海洋環境の学習拠点化を図り、交流・関係人口を増加させ好循環を生み出す。

海を守り
海を活かし
海と生きる

環境 (海を守る取組)



課題

- ・内航海運業の再生可能エネルギー導入
- ・エネルギーコストの域内循環
- ・海洋汚染物質の排出抑制

対策

- ◆ **穏やかな海を維持・向上させる取組**
 - ・再生可能エネルギー活用に向けた検討 (内航海運業の研修会開催等)
 - ・カーボンオフセットの取組
 - ・海をきれいにして水産資源を回復させる取組
- ◆ **穏やかな海の恩恵を活かした取組**
 - ・地域エネルギー会社の創設 (可能性調査～設立)

【環境】海運業再生研修会を機とした他地域交流促進
【社会】環境活動からコミュニティ向上・転出の抑制

【社会】環境学習の拠点化・知識の向上・SDGs担い手増
【環境】海洋ごみ回収など環境活動の活発化

社会 (海と生きる取組)



課題

- ・担い手不足
- ・地域の学ぶ場の減少
- ・コロナ禍を機会とした対応

対策

- ◆ **市民の生活の質 (QOLの向上) を高める取組**
 - ・働き方改革による副業可能な人材の確保等
 - ・環境学習を通じた地域の再発見と環境担い手確保
 - ・強みである自然環境を活かした移住促進

(三側面をつなぐ統合的取組)
海にきらめく島々を活用したサステナブル事業

1 海を守り活かすことによる島々の有効活用
 (1) 全島的な取組 (ブルーカーボンオフセットの取組)
 (2) 前島 (脱炭素の推進拠点)、(3) 樋合島 (自然との共生)
 (4) 湯島 (GXの推進)、(5) 大矢野島大手原地区 (働き方改革)
 (6) 維和島 (コミュニティの醸成)
 (7) 海を守り活かし市民生活を向上させる好循環の形成
 (8) 継続的なSDGsを推進する人材育成<上天草SDGs推進パートナー>

2 海の大切さを伝える人材育成とコミュニティの醸成

3 SDGsを推進するプラットフォームの構築
 (1) SDGs協議会<全体マネジメント>、(2) Gラボ<事業推進>

【社会】副業人材の活用
地域おこし協力隊の定着率向上
【経済】交流者による地域の魅力拡大 (関係人口の拡大)

【経済】ワーケーションの推進から観光客増・商品販売促進
【社会】関係人口増加から移住者の促進

【経済】ICT自動給餌システムによる効率化で人手解消
【環境】残餌解消による海底の底質改善 (赤潮抑止)

【環境】カーボンオフセットの推進・廃プラ廃棄の抑止
【経済】海環境改善による水産資源回復・経営向上

経済 (海を活かす取組)



課題

- ・水産業の振興
- ・サプライチェーンの充実
- ・雇用機会の創出

対策

- ◆ **穏やかな海の恩恵を活かす取組**
 - ・水産業のスマート化
 - ・道の駅上天草さんぱーを核とした商品拡大
 - ・自然環境を最大限に活かした働き方改革の推進